



平成 18 年 11 月 17 日

各 位

会社名 株式会社ディーワンダーランド
代表者名 代表取締役社長 久野 哲彦
JASDAQ・コード 9611
問い合わせ先
役職・氏名 取締役管理部長 脇村 正紀
電話 03-5421-6111

平成 18 年 9 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社の平成 18 年 9 月期（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）通期の業績予想（個別）及び業績予想（連結）について、平成 18 年 8 月 29 日に修正公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 18 年 9 月期通期業績予想（個別）の修正（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	271	△212	597
今回修正予想 (B)	40	△150	582
増減額 (B-A)	△231	62	△15
増減率 (%)	△85.2	—	△2.5

(金額の単位：百万円)

2. 平成 18 年 9 月期通期業績予想（連結）の修正（平成 17 年 10 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日）

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (A)	5,071	334	679
今回発表予想 (B)	4,837	137	600
増減額 (B-A)	△234	△197	△79
増減率 (%)	△4.6	△58.9	△11.6

(金額の単位：百万円)

3. 修正の理由

大型システム開発案件が、顧客からの仕様変更、追加要件の要請により開発工数が増加し、案件としての規模が大きくなり、難易度も上がったために開発に遅れが発生し、また売上の計上について監査法人と協議をしておりましたが、売上が来期にずれ込むことが判明したことから、売上高は前回の予想に対して 231 百万円減少する見込みです。

利益面におきましては、上記大型案件の遅れに伴う製造コストの上昇、増資に伴う諸費用の増加、「固定資産の減損に係る会計基準」の適用に伴い、所有する固定資産について現存処理を行い、特別損失 521 百万円、また大型システム開発案件について、想定した作業量を大幅に上回ることが判明したため、損失額について合理的に見積もることが可能な金額 200 百万円を受注損失引当金に計上することから、前回予想に対して、経常利益では約 62 百万円の増加、当期純利益では 15 百万円の減少となる見込みです。

なお、当期純利益につきましては、連結子会社の最近事業年度における業績の動向などを踏まえ、当社グループの法人税上の課税所得を考慮し、税効果会計に基づく、当期純利益の調整項目として法人税等調整額 1,419 百万円を計上しております。

また、連結の業績の見通しにつきましては、子会社の大黒屋におきましては主力地域である新宿地区に近年競合他社の出店が相次ぎ、売上げおよび買取り仕入れが前年同月比マイナスで推移しているものの、大阪ミナミ店の出店効果が寄与し増収となっておりますが、売上高は前回の予想に対して 234 百万円減少する見込みです。利益面におきましては、9 月に実行しましたリファイナンスの手数料等が発生しましたが、売上の増加等により吸収できると考えておりましたが、個別での売上の減少が判明したことから全てを吸収できず、経常利益では前回予想に対して 197 百万円の大幅な減少となり、当期純利益では 79 百万円の減少となる見込みです。

(注) 上記の連結予想は、連結子会社の業績については連結初年度のため、平成18年4月1日から平成18年9月30日までの期間の数値となっております。

(注) 当該予想は、本資料の作成時点で入手可能な資料に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって、予想数値と異なる場合があります。

以上